

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

# 学校だより

平成29年1月10日(火)発行 第 37 号 発行責任者:高橋 弘悦

## 明けましておめでとうございます

昨年に引き続き雪のない穏やかな正月となりました。「今年は大雪を覚悟しなければ…」と置いていただけに、少し得した気分になっています。

本日始業式を迎えましたが、子どもたちは新年早々1月4日には全員登校、また教職員も全員出勤して冬休みとは思えないような日々を過ごしてきました。満を持しての三学期の始まりです。

1学期、2学期と子どもたちは少人数を感じさせないほど、学習に、諸活動にと取り組んできました。3学期はその頑張りを次へのステップとして生かしていく時期と考えています。一層のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



西山中学校職員一同

## 七日堂詣りに貢献

全国的にも有名な七日堂裸詣りに今年も西山中学校から多くの生徒が協力してくれました。

男子が1名という少人数ではありますが、伝統を途絶えさすまいと天斗くんが今年も参加、見事登り切りました。

また、小学校から菊地晃太郎くんも参加し、彼も見事に登り切ることができました。

おもてなしの部では、2年生真生さん、未夢さん、涼花さん、1年生から花さん、寿々帆さんの5名が参加。道行く人に大きな声で呼びかけを行っていました。

少人数の学校ではありますが、今年も例年に劣らず千年以上続くという町の伝統行事に貢献することができました。



## 砂漠に行くラクダのように

始業式式辞

明けましておめでとうございます。今日、ここに18日間の冬休みが無事に終了し、全員が登校できたことを、とても嬉しく思います。

さて、昨年の始業式式辞に、「ラクダが砂漠に住めてキリンが住めないのはなぜだろう…?」という話をしました。覚えているでしょうか…。

覚えていない人がほとんどだと思いますので、同じような話をしたいと思います。

キリンが砂漠に住めない訳は…「背が高すぎるんです」その心は…?



キリンは背が高すぎて、見渡すかぎりの砂漠が一目瞭然で見えてしまいどこまで行っても砂ばかりであることを悟ってしまう。でもラクダにはそれが見えないのでオアシスややしの木の存在の希望を抱いて前に進んでいける…。

新年を迎え、皆さんも目標を掲げたと思いますが、大きな目標に尻込みせず、ラクダのように、「もう少し頑張れば緑のオアシスが待っている」と希望を持ち、目標を目指して着実に歩み続けること一年になることを期待しています。

学校は4月始まりで3月が締めくくりですので、今日から始まる3学期は、これまで皆さんががんばってきたことを花開かせる学期になります。3年生は45日間、1、2年生は53日間という短い学期ですので、年度初めに掲げた「あこがれ」の自分に向かって全力を尽くしてほしいと思います。先生方も皆さんの最高の姿を目指して、惜しみなく支援をしていきます。

12月のはじめに、皆さんや保護者の方のご協力をいただいて、学校アンケートを実施しました。大変高い評価をいただいて、これからも気を引き締めてがんばらなければならないと先生方と確認したところですが、一つだけ気になるのが挨拶や言葉遣いの項目です。皆さんは「よくやっている」と感じているようですが、保護者の評価は必ずしも高くない。

周りからの評価が高いのに、家庭の評価はそうでもない…ということは、親しい人の前ではあまりなされていないということがいえそうです。

「そんなことぐらい」という声が聞こえてきそうですが、当たり前なのがきちんとできてこそその先が開けてくるものです。小さなことをおろそかにする者は事をなすことができないといえます。三学期は仕上げの時期ですので、こういうこともおろそかにすることなくやっていきましょう。一步一步目の前を見ながら、不可能にチャレンジする西山中学生であることを祈って式辞とします。平成29年1月10日



柳津中、西山中、西山小の児童生徒計17人と教職員がリリしい下帯姿で参加、地元の伝統行事を盛り上げた

1/9付け 福島民友新聞より

七日堂  
裸まいり

カメラ  
トピックス

男衆掛け声威勢良く

柳津町の福満虚空蔵菩薩田藏寺で7日夜に行われた「七日堂裸まいり」。県内外から参加した男衆たちが威勢のいい掛け声で祭りに参加し、新春の恒例行事を盛り上げた。